

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400947
法人名	社会福祉法人 天恵会
事業所名	グループホーム ありあけの丘
訪問調査日	平成 21 年 3 月 13 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4372400947
法人名	社会福祉法人 天恵会
事業所名	グループホームありあけの丘
所在地 (電話番号)	熊本県玉名市天水町部田見448-1 (電 話) 0968-71-5888
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(平成21年 2月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.6人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造瓦葺平屋 造り	
	1階建ての	1 階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月 13日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.1 歳	最低 80 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉田医院、にしむら歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣接の母体特養とは、利用者同士の交流が日常的に行われ、特養を利用して在宅時の知人とも、近所付き合いが継続できている。また、行事や研修・防災訓練等は合同で実施、特養の管理栄養士の協力が得られるなど、密接な連携が図られ、質の高いサービスが提供されている。管理者のリーダーシップが発揮され、職員が結束し、より良いケアを目指しており、サービスの向上や自己研鑽・資格取得に意欲的に取り組んでいる。職員は介護系の資格に限らず、多様な資格を有しており、入居者の個性や能力を伸ばす援助に、その特技が活用されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題改善に積極的に取り組み、成果を得ている。特に、強い入浴拒否がある入居者の対応には、全職員でアイデアを出し合い、協力しあって熱心に取り組む、改善が見られている。この緊密な関わりが入居者の心を和らげ、不穏症状は激減し、表情も穏やかになるなど、生活全般に良い影響が表れている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、ケアの見直しが行われていた。全員で取り組むことにより、意識合わせが図られ、ホームの目指す目標に向かって、力を合わせて努力していることとする意欲が感じられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族参加は交代制で全家族に参加の機会があり、認知症やホームの活動への理解が深まり、協力が得られやすくなっている。家族清掃日は、入居者・家族の交流の機会という意図を理解し、全家族の協力があり、訪問や家族会の参加も多い。会議には地域代表や市職員も参加し、ホームの近況報告と活発な質疑応答、意見交換があり、地域行事や法人の行事での相互協力体制が築かれている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の心情を深く理解し、その思いに寄り添う支援を心がけており、あらゆる機会を捉えて意見・要望を引き出す努力が行われている。日々の訪問時や家族参加の行事、家族会等では温かく対応し、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。苦情はほとんどなく、家族アンケートでも感謝の言葉が多く見られ、安心されていることが伺える。要望には柔軟な対応が見られ、家族との信頼関係が築かれていることが感じ取れた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人主催の春祭りや「どんどこ」などの地域行事、子供達のワークキャンプ等にホーム横の広場を開放し、地域との交流を積極的に行っている。敬老の日には踊りのボランティアが訪れ、近くの神社に参拝した帰りに、ホームに立ち寄り人もいる。老人会の見学や大学生の実習を受け入れ、地区の苦役には職員が参加、住民と馴染み、地域に根ざしたホームになっている。地域との防災協定も整備されており、相互の協力・連携体制が築かれている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2年前の制度改正に伴い、全職員で話し合い、地域密着型サービスを盛り込んだ理念が作成されている。「入居者の尊厳」「生きがいのある心とむ暮らし」「地域に開放されたホーム」を柱として、職員のあるべき姿を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が考えた理念であり、意図を理解し、共有できている。毎朝朝礼時に、掲示してある理念を読み上げ、日々確認している。入居者の世界を肯定し温かく包むケア、家族への細やかな報告など、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域の清掃作業等に参加、住民と話を交わし、親しい関係作りに努めている。法人が主催する恒例の春祭りには、老人クラブや婦人会・ボランティアの歌・踊り・出店等、また、小学生・高校生のブラスバンド演奏など多くの協力があり、地域住民も参加し賑やかに行われている。入居者は出店で買い物をしたり、舞台の演技を楽しみ、昔なじみの住民との出会いもあって、交流が図られている。ホーム横の広場では、藤崎宮大祭の馬追や踊り、地域行事のどんとやが行われ、子供達のワークキャンプも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、全職員でケアを振り返り、自己評価に取り組んでいる。評価の課題は、検討を重ね、改善方法を見出している。遠方や高齢の家族は容易に訪問できないため、入居者直筆入りの年賀状や暑中見舞いを送る際に、職員より入居者の状況を一筆記して伝え、家族との連携を深めている。母体特養のケアチェック表をホーム用に改良し、パソコンで管理する方法を導入するなど、意欲的な取り組みが確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催。市職・区長・地域包括支援センターの参加があり、入居者と家族は順番制にし、交代で全家族に参加してもらうようにしている。ホームの現状や行事等の報告、活発な質疑応答が行われており、ホームや認知症への理解が深まってきている。地域行事のどんどこやに広場を提供し、区長は住民の参加を呼びかけるなど、会議を通して互いに協力し合う関係も築かれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他にも、行事に招待し、また、市役所に出向いて相談する等、積極的に交流を図っている。市担当者とは顔なじみになっており、気軽に相談し助言を受ける関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問は1ヶ月に40～50人と多く、その都度コミュニケーションを図り、近況や金銭管理状況を報告している。健康状態に変化が見られた時は、電話で連絡し、家族の不安軽減に努めている。近況報告時は、「できていること」をしっかり伝え、家族が安心できるよう配慮している。遠方に在住あるいは高齢のため訪問できない家族には、こまめに電話連絡、写真を添えた手紙で近況報告を心がけている。	○	遠方に住む家族の不安感を考慮し、更に情報伝達の機会を多くしていきたいと考えており、家族の思いに寄り添った支援が期待できる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催。同時に食事会やカラオケ等の交流も図られ、家族同士の仲が良く、話しやすい雰囲気が作られている。家族会では緊急時の対応や入浴拒否の対応等の意見・要望があり、速やかに改善が図られている。運営推進会議への参加を順番制にし、遠方の家族には帰省の時期に合わせて会議の日時を決めるなど、全家族の参加を促し、意見・要望を表す機会作りを行っている。不満・苦情は言い出しにくいことに留意し、日々のコミュニケーションを深め、何でも話せる関係作りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動は少ないが、中間幹部の育成及び法人全体の連携、協力を図るため、管理者の異動が行われている。現在の管理者は、母体特養に在職中からホームの職員とも交流があり、結束して認知症ケアに取り組んでいる。異動、離職による新職員の導入では、入居者・家族に紹介し、早く馴染みの関係が築けるよう配慮している。また、新職員に入居者個々の対応方法について細やかに指導し、ケアのばらつきを抑え、入居者のダメージを防ぐよう努めている。	○	管理者の交代は、ホームの運営に大きな影響を及ぼすことが考えられ、入居者・家族にも不安を与えかねないことから、交代は慎重に行い、影響を最小限に抑えることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修会や県主催等の外部研修に参加。ホーム内でも、勉強会を毎月実施し、職員の資質向上を図っている。管理者は勉強熱心で、今年度は認知症ケア専門士の資格を取得している。その姿に触発され、職員も様々な資格取得にチャレンジするようになってきている。資格取得や研修への参加を、法人全体でバックアップし、有資格者には手当を付けている。頑張りをねぎらい、職員数も定員以上に配置し、勉強しやすい環境が作られている。職員の段階に応じたOJTがおこなわれ、カンファレンス時も疑問点について勉強する機会としている。	○	次年度のホーム内の毎月の勉強会は、認知症を重点的に学ぶ計画が立てられている。法人で実施する勉強会は福祉系大学の教授、准教授や他のグループホームのホーム長及び医療機関の医師を講師に招く予定であり、学びを深め、更に職員のレベルアップが期待できる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他事業所と情報交換し、交流に努めている。地域の他のグループホームと、入居者を伴って互いに訪問し合う取り組みもあり、実務レベルでの情報交換が行われている。	○	法人の方針として、地域のグループホーム連絡会には加入していないが、広く交流を図り、情報交換やネットワーク作りを行うには、連絡会に参加することも意義があると思われる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、見学や日中の体験入居、空きベッドを利用したショートステイを家族に勧めるなど、馴染みながら入居に至るシステムが作られている。入居後間もなくは、家族に対し頻回の面会を依頼したり、他の入居者との交流の橋渡しを行い、1人にしないよう努め、不安な思いにさせないケアを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活する中で、自分でできることを引き出し、個々の能力に応じて家事に参加してもらっている。花作りや野菜作りは、体力的に無理な人には、アドバイスを受けるようにしている。昔の地域の様子や行事などの話には、職員が学ぶことも多く、ゆったりと話ができる場面作りが行われている。出退勤時は入居者一人ひとりに挨拶し「気を付けて帰れ」「明日も来なっせえ」と応える入居者の声が聞かれ、家族のような温かい雰囲気が感じられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話を傾聴・共感し、思いを汲み取る努力が行われている。言葉でうまく表現できない人には、毎日の関わりの中で言動を観察し、意向を察知するよう努めている。把握した情報は記録に残し、経過記録からも意向、希望を推しはかっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や希望は、訪問時のコミュニケーションで推察したり、介護計画作成時に確認し、計画に反映させている。記録や職員からの情報を参考にアセスメントを行い、担当者会議で検討し、計画を作成しており、本人・家族、職員の意見を取り入れた内容になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングし、介護計画の見直しを行っている。モニタリングでは、「できること、できないことシート」や介護記録を参考にしている。介護記録は細かに記録され、毎日の暮らしぶりが分かりやすい内容になっている。定期的見直し以外にも、心身に変化が見られる場合は、随時見直し、変化に応じた適切なケアの提供を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の中に美容師や調理師、レクリエーションインストラクターの有資格者がおり、多様な支援が実施されている。美容師の職員が無料でカットを行い、調理師の職員は献立作りや料理指導に活躍している。個別レクリエーションや回想法など、インストラクターの本領が発揮され、入居者には楽しみながらの心身の機能訓練になっている。帰宅願望のある人には、家族と相談し、日中の数時間を自宅で過ごせるよう送迎し、心の安定を図っている。入院中の空きベッドにショートステイを受け入れ、在宅介護の支援も行なうなど、様々なニーズにホームの機能を活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は状況に応じ家族と共に同行、家族の付き添いが困難な場合は職員のみで付き添い、本人の希望するかかりつけ医に通院支援している。同行することで、家族の不安が軽減されている。また、医師に正確な情報を伝え、治療方針を直接聞き、適切な療養支援が行われている。協力医院とは、往診に来てもらえる体制が作られている。転院の場合は、医療機関への情報提供を十分に行い、環境の変化による混乱を最小限に抑えるよう努力している。入院中は見舞いに訪れ、医療機関や家族と情報交換し、早期退院に向けた支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、早期からホームの方針を説明し、本人・家族の意向を確認している。状態の変化に応じて意向の再確認も行い、かかりつけ医と連携した支援を実施している。医療機器の使用内容によっては、ホームでの看取りに限界はあるが、家族と付き添い等の協力体制を話し合い、最後までケアしていく方針である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に「個人の尊厳」「思いやりのある心」を挙げ、毎朝唱和し、入居者の誇りとプライバシーを大切にケアの意識付けが行われている。言葉づかいや声の大きさ、対応など具体的に指導されているが、聞こえにくい入居者に大きい声でトイレに誘う光景が見られ、羞恥心に配慮した対応への工夫がもう少し必要と感じた。記録はキッチンカウンターで行い、訪問者がある時は閉じるようにし、個人情報の保護を図っている。	○	キッチンカウンターの記録は、閉じ忘れの可能性があり、万全とは言い難い。記録場所を変える、あるいは訪問者の有無に関わらず閉じる習慣付けをするなど、再検討されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活のリズムをつけることを基本にしながら、個々のペースに配慮し、楽しく過ごしてもらうよう支援している。一人のんびり過ごす人、ルーペを片手に新聞を読む人、ホームの愛犬を膝にくつろぐ人など、思い思いに過ごされている姿が見られ、穏やかな暮らしが感じ取れた。管理者は「1日1回は笑ってもらう」をモットーに、入居者に喜んでもらえることを見出し、月間行事や日々の活動、レクリエーションに取り入れている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式のキッチンで、入居者と会話しながら調理し、できる人には野菜切りや下準備を手伝ってもらっている。食事の前に献立を紹介、職員も食事を共にし、さりげない介助や話題を提供するなど、食事を楽しんでもらう努力が感じられた。最初の一口で「うまー」と入居者の声が飛び、美味しい料理を楽しんでいた。献立は入居者の好みを取り入れ、魚料理が多く、調理方法も勉強し工夫されている。	○	数人の入居者は介護用エプロンを着用されていたが、食べこぼしはそれほど多くなく、膝にタオルを置いたり、お洒落なエプロン等でも良いのではないかとと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本に、体調を考慮しつつ希望の日時に実施している。入浴拒否が強い人には、トイレのついでに誘うなどタイミングを見計らい、その時の気分に応じた言葉かけを行って、隔日には入浴してもらえるようになっていく。入浴後には「ありがとう、気持ちよかった」の声も聞かれるなど、全職員の熱心な取り組みに、成果が表れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月間スケジュールに、喜んでもらえそうな企画を組み入れている。お洒落の日にはマニキュアやお化粧品を楽しみ、フットマッサージの日には心も癒され、入居者に喜ばれている。個々の興味や能力に応じた個別レクリエーションにも熱心に取り組んでおり、壁飾りや小物の制作は達成感を得ることができ、指のリハビリや脳の活性化にもなっている。食事の準備や後片づけ、洗濯物たたみ等に声かけし、役割意識を持って生き生きと過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム横の広場を囲むように遊歩道が設けてあり、歩行が不安定な人も容易に散歩でき、桜やツツジを楽しまれている。天気の良い日は一緒に買い物に出かけ、特養に造られた足湯や、月に2回は季節毎の花見、近くの温泉、外食など、個々の希望に応じて外出支援を行っている。法事には自宅に送迎し、ふるさと訪問も実施。本年度は、ホームの開設5周年を記念して、家族参加の温泉旅行を実施した。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、入居者の思いのまま自由に外出できる。センサーで出入りを察知し、声かけや見守りで安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の特養と合同の火災訓練は、消防署の指導のもと、年3回実施、日中及び夜間想定、地域の消防団が参加しての訓練が行われている。緊急連絡訓練は毎月実施されている。ホーム単独での避難訓練も年1回行い、避難経路を確認しており、熱心に取り組んでいる。地区と防災協定を交わし、災害時は広場を地域に開放し、地区の公民館を避難場所に使用できるなど、相互の協力体制が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目の食品摂取を目標に献立を考え、特養の管理栄養士にアドバイスを受けており、バランスの取れた食事が提供されている。糖尿病や高血圧の人には、満足感を損ねないように配慮しながら、カロリー制限、塩分制限を行っている。食事・水分の摂取量はケアチェック表に記録、申し送りで情報を共有し、健康管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング壁面の飾りつけは、段ボールや包装紙等を利用して、入居者と協力して作成。毎月取り替えて、季節の移り変わりを感じてもらっている。入居者がくつろげるようソファの配置を考え、一人を好む人には、他の人の姿が見え、誰からも煩わされない場所に、専用のイスを置いている。至る所に花を飾り、テーブルには旬の果物や野菜を置く演出で、季節の移ろいを楽しんでもらう工夫が見られた。リビングに加湿器を置き、室温も廊下との温度差が少ないよう調整し、風邪防止が図られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた物の持ち込みを家族に促し、その人らしい部屋作りが行われている。座椅子や机を持ち込み居心地が良い部屋や、手作りの写真立てに家族の写真、花いっぱいの写真など、家族とのつながりが感じられる部屋が見受けられた。今回、カーテンの変更では、入居者個々に好きな柄を選んでもらうなど、個性を大切に支援が行われている。	○	ポータブルトイレが置いてある居室があったが、昼間は使用されていないので、目に付きにくい工夫をされると良いと考える。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームありあけの丘
(ユニット名)	グループホームありあけの丘
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市天水町部田見448-1
記入者名 (管理者)	徳山由香里
記入日	平成 21年 2月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が理念に基づきサービスの提供を行い、いつでも地域の方が出入りできるような環境づくりに努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時、壁に掲示している理念を声を出して読みあげ、その日一日、充実した利用者への提供が出来るようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族への理念の浸透は家族会で説明している。地域の人々に対しては、母体施設行事や交流会などで施設全体で理念の説明をしている。	○ 地域の方へ、近所を通られているのを見かけたときなど声をかけている。もっと遠慮されず来ていただくように浸透させたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当事業所より上にあるお宮へ月2回お参りに行かれる近所の方に、お茶を飲んで行かれるような声掛けをし、立ち寄られた際は入居者の方と話ができています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区役などに参加し地域の方と話をしたり、母体ホームでの交流会に参加し、知り合いの方から声をかけてもらったり、または当施設へも敬老の日に母体へ交流に来られた方々がお祝いに踊りに来てくださっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各老人会の方々の見学や大学からの実習生の受け入れ等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義の理解のため自己評価は全員で行っている。また、前年度の評価結果を基に職員全員で改善点や新たな取り組みについて検討実施した。	○	家族への便りは新しい取り組みとして実施した。便りの回数を増やし、もっと入居者の生活をご家族に伝えていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2ヶ月の活動状況報告を行い、出席者からのご意見を今後のサービス向上に反映できるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の方と顔なじみとなり、当事業所で抱えている問題や実情について気がねなく話せ、助言やご指導を頂く関係作りをおこなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全員の権利擁護に関する制度の理解には欠けている。又、現在対象者はいない為、支援が必要になった時対応ができない。	○	研修会等に参加し、事業所における勉強会で職員が把握できるように周知していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より入居者の対応について、職員同士が情報交換しお互いに注意しあいながら、接し方や言葉使いに気をつけている。 また、施設内研修会に参加し、高齢者虐待について学んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>ご家族に対して契約書、重要事項説明書の付加説明を行い、疑問点がある場合は尋ねていただいている。また、解約時も御意見を伺いながら対応している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>玄関口に意見箱を設置している。また、入居者の方と日常の会話や個別の対話の時に、不満事や意見等を聞きだし職員に周知し、検討対策を図って実施している。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>ご家族の面会時、金銭の管理状況を確認してもらい、日常の健康状態はその都度家族に電話での連絡をしている。家族会のときに、日常の状況、それまでの様子の報告や職員の異動について報告している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ご家族からの意見は家族会等で出てきますが、不満、苦情については話づらいのか声が聞かれません。母体の職員に話された時すぐに管理者並びに職員に報告していただき、検討改善を図っています。</p>	○	もっと、何でも話せる関係作りを図っていきたいと思っている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月、カンファレンスにて、それぞれの意見を聞き、必要な要件はすぐに実行に移し反映させている。また良いところを伸ばす声かけをし協力体制を作るようにしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>特に昨年の勤務体制で支障はない為、今後状況の変化など出てきた場合に話し合いと調整をしていく。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>入居者と職員の馴染みの関係を保つ為に、職員の異動や離職時には、新人職員へ入居者の生活状況や対応方法について細かに説明し指導して、入居者に対するダメージを防ぐようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会、母体である施設全体の施設内研修会、必要に応じて施設外研修にも職員交代で参加させている。業務中においても疑問に感じる事はカンファレンス時に尋ねてもらい皆で勉強している。	○ グループホーム内での勉強会は色々なテーマで行っていたが、来年度は認知症について知識を深めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加した時に、施設間の情報交換を行っている。入居者の体調に合わせて、地域の施設との交流を図っている。桜の花見などに当施設へ来ていただくように声かけをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的なカンファレンスの場で職員の意見、不満、希望などを聞くようにしている。職員間で心を開いて相談などが出来る関係作りを図っている。年に1回母体施設の職員旅行に行き、ストレスを発散している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けての配慮や、職員が長く仕事出来るようにお互いの勤務希望を出して、希望に沿うように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に施設の見学など行っており、困っている事やご本人の希望や状態をお聞きし、入居された時に安心してサービスを提供できるような体制を整えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前訪問や入居にあたり電話だけの相談に限らず、施設を見学していただき、環境や職員の対応、入居されている方の状態などを実際に見ていただき質問に答えている。また、ご家族の不安や困っている事をお聞きし対応できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、ケアマネジャーや他の施設、包括支援センターなどに相談したり、内容に応じたサービスを提供できるところを検討できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が安心して入居できるように、事前に見学していただく、日中の体験入居やショートステイを利用できるような体制作りを整えている旨をご家族に話し、空きが生じた時に利用できるようにご家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一つ屋根の下で、一緒に暮らす仲間意識を持って頂き、入居者の訴えを傾聴し、不安を抱いておられるような時は、マンツーマンで対応するなど、笑顔、笑いのある暮らしが送れるように声掛け支えあう関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一緒に暮らしたくとも出来ないご家族の状況を察し、以前の暮らしが維持できるように、ご家族と話ができ、ふるさと訪問として自宅へ帰って一日過ごしていただくような企画も行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃のコミュニケーションの中で、ご家族から聞いている情報を話題にしたり、ご家族の話聞かせてもらったり、面会時には日頃の状況をご家族に報告し、より良い関係が保てるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との墓参りや、その他冠婚葬祭や地域行事参加のための支援をしている。また近所のかたの面会などに来ていただく方に継続してきていただける環境づくりに気を付けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中、入居者同士がお互いに話が弾む話題を提供したり、一つのテーブルを囲み輪を小さくする事で話が弾むように位置関係の工夫に努めている。なじみの関係になっても、トラブルが発生するような時は早目の対応をし、話し相手のいないような時は、職員が声掛けして孤独感を感じさせないように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合は、お見舞いに行ったりご家族からの相談があった場合は、相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に確認が出来ない場合、ご家族に情報を頂き確認できる方については、日頃接する中で話を聴き、意向をきいたりして把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャー等より情報を得て、生活歴などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々関わる中で、心身状態の把握は申し送りで、またご本人ができそうなこと、レベルが低下してきたことなどカンファレンスの中で情報交換し把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書作成時、ご家族の意見や希望を聞き、記録や日頃の情報交換を行い改善点は取り入れて、快適な生活をして頂く計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っているが、変化があり、入院後の退院時など見直しが必要になった場合はご本人、ご家族よりの要望を反映して新しい計画をたてている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	早出、日勤、遅出、夜勤の引継ぎは記録のみでなく、口頭で申し送りを行っている。日々の暮らしの様子は時間を追って日々の記録に残している。また、介護計画書の内容は時々考察を個人記録の中に記入している。カンファレンスの中で情報を共有し介護計画書の見直しにも活かしている。	○	記録では、日誌はパソコン入力に変更、またケアチェック表を作成しそれによってケアの提供が個別に確認できるように、パソコン管理を開始した。又個別に申し送りが分かるように個別ファイルで管理をしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員とご家族でご本人を支える上では、家族の協力をお願いしたり、病院受診については家族と協力して入居前の情報、日頃の状況を把握している者が説明できるように、希望時は状況に応じて柔軟な支援体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用として役所、消防、区長さん、他のグループホームなどとの意見交換やボランティアへの呼びかけを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人やご家族の希望に応じて、訪問美容サービスを利用されています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に、運営推進会議に参加して頂くようになってから、関わりやすくなり、利用者のことについての相談などが出来るようになった。	○	権利擁護については、現在対象者がいないため、今後対象者が出た場合にすぐに対応できるように、地域包括支援センターの職員とのかかわりを深めたいと思っています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や、事業所の協力医での医療が受けられるようにしている。また、ご家族や本人の状態によりお互いに協力し、必要時は往診に来て頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にかかげている個人の尊厳を大切に、毎朝理念を職員で読みあげ意識の向上を図り、記録の取り扱いでは、個人情報の保護を職員に徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を表していただける選択肢を用意し、自己決定を大切に、したくないことは無理強いしないようにしている。自己決定できない方については、イエス、ノーで答えられるように援助し、更に表情で捉えるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿って生活のリズムをつけながら、一人ひとりのペースに合わせ、精神的な面や体調を考慮して支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみや化粧、マニキュアなどは週間予定の中に組み込み、おしゃれをして頂くように職員が支援している。美容理容は、入居者の希望があったとき、ご家族に相談許可を得て、美容師の資格を持った職員がカットしたり、ご家族が来所してカットされたりしています。希望の中では、美容院に行きたいとの意見はない状況ですが希望があったらお連れする体制は整えている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂と台所が対面式になっており、食事の香りや音を感じていただき職員と入居者が対話しながら準備が出来るようにしています。また食材の切り込みや下準備は、出来る事をお願いして手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物に同行された時、おやつや飲み物など好きな物を買って頂けるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	職員は、記録の中から排泄パターンをつかみ、一人ひとりトイレへの誘導に努めている。タイミングが合わず失敗されることがある為、さりげなく誘導し介助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日の入浴、希望に沿った入浴時間に実施している。本人の希望や体調に合わせて時間をずらしたり、ゆっくり入っていただけるように支援している。また、体調不良により入浴できない方には、看護師の指示で清拭や衣類交換で対応している。	○	入浴拒否の強い方のご家族より臭気のないようにお風呂に入れて欲しい希望があり、うまく声掛け誘導し、1日おきの入浴ができるようになった。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	高齢の為、日中ウトウトされる方は、ソファでゆっくりしていただくたり、30分ほど気持ちよく昼寝をしていただいている。ただ、昼夜逆転傾向がうかがえる方に対しては、夜間熟睡されるように声かけをし居眠りのないようにしている。生活リズムが整い次第では昼寝も考慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来ることを見極め食事の下準備、洗濯物たたみ、化粧及びレクリエーションとして日々個人でできることを職員が担当についてして頂いている。皆で歌を唄ったり、ゲームをしたり、散歩、買物など楽しんでいただける支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来ない方がほとんどで、ご家族の希望でお預かりしている。外出時、自分で支払いの出来る方には、自分で払っていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ウッドデッキに出て日光浴をしたり、建物前のふれあい広場には遊歩道がありまわりに桜やツツジなどの花が咲く為、季節を感じていただくよう希望があるときは、遊歩道を散歩したりできるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月2回の外出活動を計画し、地域へ出向いている。また普段は施設での生活である為、自宅へ外出されるよう家族に働きかけている。	○	今年度より外出活動の中に自宅への外出(ふるさと訪問)を取り入れた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅へ電話したいと希望される時は電話発信し、とりついたりかかってきた電話は本人にとりついでいる。手紙が届いた時は代読したり自由に出来る支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも自由に入出りできるようにし、時間は決めていない。 面会にこられた時は、好きな場所で談話していただいております。お茶を飲みながら過ごされるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、犯罪である事と周知している。身体拘束廃止委員会が母体ホームにて設置されており、当施設職員もメンバーの一員として月一回の会議に参加している。身体拘束をしない工夫をヒヤリとした時点で検討し対応をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物を扉で囲ったり鍵をかけたりせず、いつもオープンな状態となっており、いつでもウッドデッキに出たり・外へ出て玄関前の椅子に腰掛けたりできるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ほとんどリビングに来て過ごされており、職員が必ず1名はリビングに待機した配置をして、見守りができるようにしている。また持ち場を離れる際は職員同士お互いに声掛けし合っており、入居者の事故が起きないようにしている。自室で安静中の方は頻りに訪室したり夜間は定期的に巡回して安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は目の届かない所に保管し、その他の物は入居者の状態により、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各勤務の引継ぎで、入居者の状態は細かいところまでの報告をし、検討事項が生じた場合は、その日のメンバーで対策を考え実行して翌日結果を聞き話し合っている。また火災については消防訓練で学び、通報訓練で職員への連絡の訓練を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年施設での研修会に救急蘇生法を取り入れており、応急手当普及員研修に参加し、参加した職員が全職員に看護師と共に指導し、周知させている。また必要に応じて対応の仕方を確認しあっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当事業所では、年1回の消防避難訓練を行っている。また、母体で年3回ある訓練にも参加、消防署の方より指導していただいている。3回の内1回は地域の消防伝の方も参加されている。また各訓練時、消防設備の使用の仕方の指導もあっている。	○	消防法が改定された際の通報装置や、火災報知機などの設置が必要になってくるとの事で、設置次第訓練の方法を見直して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の面会時に、リスク管理に関する提案をしたり、要望などを伺いカンファレンス時、職員に伝達しご家族と話した内容に沿ったリスク管理ができるように検討し対応できるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間で日常の入居者の行動や癖等に関する情報交換を行っており、健康チェックは勿論のこと会話、行動、顔色、歩行状態等により変化を察知している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者の内服内容については理解しており、変更があった場合は、その都度伝達し誤薬のない様に名前を書いて個別の仕切りのついたトレーに入れている。変更事項などは個別連絡ファイルに情報として綴じていつでも見直せるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、ヨーグルトなどの乳製品を取り入れている。又体操や散歩または腹部マッサージなどを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は自室へいかれ行われ、介助の必要な方は介助で行っている。誤嚥される方にはイソジン液を使用し、口腔清拭を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1週間分の献立を作成し、栄養バランスを考え皆で考え、母体の管理栄養士に目を通してもらいアドバイスを頂いている。カロリー数値も出している。水分補給の少ない傾向の方には、好きなミカンなどを摂取していただき不足しないよう申し送りを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎月1回の感染症委員会にて各事業所の感染症の情報交換を行い、対策会議を行っている。感染症に対してはマニュアルを作成しており、マニュアルに添った対応を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮な物を購入、多量の買い置きをしないように心掛けている。食品の期限切れのチェックや、まな板、布巾、台拭きは最後に漂白剤に浸け置き洗いし、食器類も必要に応じて漂白剤に浸けて衛生に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇には季節の花を植え、入居者や来所された方に和んでいただくようにしている。又玄関入口のポーチには、ベンチを置き、外の景色を眺めながら歌を唄ったり、家族の面会時にくつろいでいただくようにスペースを設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは季節を感じていただけるように季節の花や、果物を置いて話が弾むようにしたり、あるいは壁面などに工夫し今を感じていただく空間にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関ポーチ、ウッドデッキには椅子やテーブルを設置し、気軽に外の空気に触れたり、一人になりたい時は廊下の椅子で広場を眺めて過ごされるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などは飾っておられる。座椅子や机など持ち込まれ心地よい居室作りをしている。	○	ご家族に昔愛用されていた物があつたら持参されるように依頼している。今後も持参を依頼して住み心地のいいようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は朝から必ず行い必要に応じ午前、午後換気を行っている。臭気に関しては職員が敏感になり徹底している。空調の使用は入居者の体調を考え夏は自然の風を取り入れたり、室温湿度計を見ながら小まめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路になるところは、歩行の支障になる物は極力除去し、入居者に応じ、椅子から手すりに移動しやすい配置を考えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋の壁やカーテンの色を変えており、入口には表札、トイレの表示をし、混乱されないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキには、椅子、テーブルを置いており、その前の花壇には花や野菜を植えている。広場や玄関ポーチにはベンチが置かれ、散歩の途中で休憩し、話をしたり唄ったり、夏は涼んだり職員と花火をして楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当事業所は、小高い山の中腹にあり環境に恵まれ、建物前の広場は色々なイベントがある際に活用され、いつでも参加できるような環境です。散歩コースもありベンチでゆっくり休憩できるようになっています。
- ・今年度は、事業所として個人の機能を発揮してもらい生活リハビリを兼ねてレクリエーションに力を入れて1日のメリハリがもてるように支援してきました。色々なメニューを用意しており個人の機能にあった手作業もされています。
- ・母体施設と離れており、今年度は母体施設との交流を取り入れ、お互いがいつでも行き来できるような体制をとりました。
- ・ご家族との連携を密にし、些細な事でも話をして入居者の状態を把握していただき、家族、入居者、職員三位一体となって支援していく事を心がけています。
- ・今年度は、家族への手紙を取り入れました。また新たにふるさと訪問を開始し、入居者の生き甲斐と昔を思い出してもらおうように住みなれた地域へ外出したり自宅へ訪問しています。